

講義要綱

SYLLABUS

2024年度

柔整科

2

年

【専門基礎分野】

解剖学Ⅲ
解剖学Ⅳ
解剖学Ⅴ
生理学Ⅲ
生理学Ⅳ
総合スポーツ生理学
運動学Ⅰ
運動学Ⅱ
病理学概論Ⅰ
一般臨床医学Ⅰ
一般臨床医学Ⅱ
外科学概論Ⅰ
整形外科学
リハビリテーション医学Ⅰ
柔道Ⅰ
柔道Ⅱ
柔道Ⅲ

【専門分野】

柔整骨折理論Ⅲ
柔整脱臼理論Ⅱ
柔整軟損理論Ⅱ
柔整総合講座Ⅰ
柔整総合講座Ⅱ
柔整骨折実技Ⅲ
柔整骨折実技Ⅳ
柔整軟損実技
柔整脱臼軟損実技Ⅰ
柔整脱臼軟損実技Ⅱ
外傷学実技
臨床実習Ⅱ
臨床実習Ⅲ



学校法人 エイジェック学園

2024年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験が有る教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の脈管系、消化器系についての知識を身につける。脈管系の構造、位置を理解し、血液、リンパが人体をどのように循環するか理解する。そして消化器の構造を理解し、内臓の位置関係を的確に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。

どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	脈管系①：体循環と肺循環・心臓の構造・大動脈について	講義
2回	脈管系②：頸部の動脈・頭部の動脈	講義
3回	脈管系③：胸部・腹部の動脈	講義
4回	脈管系④：上肢の動脈・骨盤・下肢の動脈	講義
5回	脈管系⑤：動脈小テスト	講義
6回	脈管系⑥：全身の静脈	講義
7回	脈管系⑦：リンパ系・胎児循環	講義
8回	脈管系⑧：静脈・リンパ小テスト	講義
9回	内臓系①：消化器系（口腔・歯・舌・食道・胃）	講義
10回	内臓系②：消化器系（小腸・大腸）	講義
11回	内臓系③：消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）	講義
12回	内臓系④：消化器系 小テスト	講義
13回	内臓系⑤：泌尿器系（腎臓・尿管）	講義
14回	内臓系⑥：泌尿器系（膀胱・尿道）	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験が有る教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の呼吸器系、泌尿器系、生殖器系そして内分泌系についての知識を身につける。各器官の構造と位置を理解し、的確に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。

どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	内臓学：泌尿器系（腎臓・尿管）	講義
2回	内臓学：泌尿器系（膀胱・尿道）	講義
3回	内臓学：泌尿器系まとめ 小テスト	講義
4回	内臓学：生殖器系（男性）	講義
5回	内臓学：生殖器系（女性）	講義
6回	内臓学：生殖器系まとめ 小テスト	講義
7回	内臓学：呼吸器系	講義
8回	内臓学：呼吸器系まとめ小テスト	講義
9回	内臓学：内分泌系（ホルモン総論・視床下部・下垂体）	講義
10回	内臓学：内分泌系（各内分泌器官）	講義
11回	内臓学：内分泌系まとめ 小テスト	講義
12回	内臓学：感覚器系（皮膚感覚）	講義
13回	内臓学⑬：感覚器系（視覚・聴覚・平衡感覚）	講義
14回	内臓学⑬：感覚器系まとめ 小テスト	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

解剖学Ⅴ

2学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験が有る教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の神経系、感覚器系についての知識を身につける。中枢神経系、末梢神経系、感覚器系の役割や構造を理解し、人体をどのように制御、作用しているかを適切に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。

どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	神経系 総論 (中枢神経と末梢神経 ニューロンとグリア細胞)	講義
2回	神経系 大脳Ⅰ (脳室系、区分と機能中枢、内部構造)	講義
3回	神経系 大脳Ⅱ (大脳基底核、大脳辺縁系)	講義
4回	神経系 間脳・小脳	講義
5回	神経系 脳幹	講義
6回	神経系 脊髄Ⅰ (前根後根 灰白質 反射弓)	講義
7回	神経系 脊髄Ⅱ (上行伝導路 下行伝導路=錐体路・錐体外路)	講義
8回	神経系 脳神経Ⅰ (嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経)	講義
9回	神経系 脳神経Ⅱ (顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経)	講義
10回	神経系 自律神経 (交感神経と副交感神経)	講義
11回	神経系 脊髄神経 (頸神経叢と枝 腕神経叢と枝 腰神経叢と枝 仙骨神経叢と枝)	講義
12回	体表解剖 (体表区分・骨格系・筋系)	講義
13回	体表解剖 (脈管系・神経系)	講義
14回	体表解剖 (目耳鼻口、外皮、生体計測)	講義
15回	まとめ、解説 (単位認定試験)	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

- ・神経細胞の構造、神経の膜電位、興奮の伝導と伝達、神経の分類、脳の高次機能、自律神経系の機能について理解を深める。
- ・運動の調節、脊髄反射、脳幹反射、高次運動機能について理解を深める。
- ・感覚の生理、一般感覚、特殊感覚、内臓感覚について理解を深める。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

教科書とノートを必ず持参して下さい。教科書の表や図を使用します。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	神経の生理（神経信号の伝達）	講義
2回	神経の生理（神経系の構成）	講義
3回	神経の生理（脳の高次機能）	講義
4回	神経の生理（内蔵機能の調節）	講義
5回	運動の生理（運動の調節）	講義
6回	運動の生理（運動神経と運動単位）	講義
7回	運動の生理（脊髄による反射とその調節） 小テスト①	講義
8回	運動の生理（脳幹による運動調節）	講義
9回	運動の生理（高次運動機能）	講義
10回	感覚の生理（感覚の一般的な特性）	講義
11回	感覚の生理（特殊感覚「視覚・聴覚」）	講義
12回	感覚の生理（特殊感覚「平衡感覚・味覚・嗅覚」）	講義
13回	感覚の生理（体性感覚）	講義
14回	感覚の生理（内臓感覚、痛覚） 小テスト②	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

- ・ホルモンの一般的性質や分泌調節、各内分泌腺から分泌されるホルモンについて理解を深める。
- ・性分化、生殖器の機能、妊娠と分娩、体温について理解を深める。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂。

[履修の条件・留意点]

教科書とノートを必ず持参して下さい。教科書の図や表を使用します。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	内分泌（内分泌腺とホルモン）	講義
2回	内分泌（それぞれの内分泌腺とホルモンの働き「視床下部ホルモン・下垂体ホルモン」）	講義
3回	内分泌（ホルモンの働き「甲状腺・副甲状腺・副腎皮質」）	講義
4回	内分泌（ホルモンの働き「副腎髄質・腎臓・膵臓」）	講義
5回	内分泌（ホルモンの働き「精巣・卵巣」）	講義
6回	内分泌（ホルモンによる内部環境の恒常性維持）	講義
7回	生殖（性分化） 小テスト①	講義
8回	生殖（男性生殖器）	講義
9回	生殖（女性生殖器）	講義
10回	生殖（妊娠と分娩）	講義
11回	体温とその調節（体温、熱産生、熱放散）	講義
12回	体温とその調節（体温調節）	講義
13回	体温とその調節（気候馴化）	講義
14回	体温とその調節（発熱とうつ熱） 小テスト②	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

人体の構造と機能

[授業科目]

総合スポーツ生理学

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

- ・高齢者に特徴的な生理学特徴や変化について理解を深める。
- ・小児期～青年期までの成長に関する生理学特徴について理解を深める。
- ・スポーツ競技者の生理学特徴について理解を深める。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂。

[履修の条件・留意点]

教科書とノートを必ず持参して下さい。教科書の図や表を使用します。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	高齢者の生理学的特徴・変化①（細胞・組織の加齢現象，高齢者の生理的特徴①）	講義
2回	高齢者の生理学的特徴・変化②（高齢者の生理的特徴②，運動と加齢）	講義
3回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化①（成長に伴うからだや運動能力の発達，競技者の生理的特徴・変化）	講義
4回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化②（競技者の生理的特徴・変化）	講義
5回	競技者の生理学的特徴・変化③	講義
6回	神経の生理① 復習	講義
7回	神経の生理② 復習 小テスト①	講義
8回	運動の生理 復習	講義
9回	感覚の生理① 復習	講義
10回	感覚の生理② 復習	講義
11回	内分泌① 復習	講義
12回	内分泌② 復習	講義
13回	生殖 復習	講義
14回	体温とその調節 復習 小テスト②	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

人体の構造と機能

[授業科目]

運動学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	福井 悠紀子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、認定実技審査員（柔整、柔道）の資格を持ち、医療系大学で運動学を指導した経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師が施術を行う運動器について理解する。運動器の構造を理解した上で、運動の際、それらがどのような働きを行うかを学び、理解できる知識を見に付けることを目標とする。

[評価方法]

テストを行い60%以上の正解をもって、単位修得を認定する。ただし出席日数の充足していない受講者は単位修得を認めない。

[教科書]

[参考書]

「運動学」 斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会
監修 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

毎回の授業前にテキストに目を通して（予習して）おけば、授業の習熟度があがります。
授業はテキストに沿って行いますので、テキストを必ず持参してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業導入、授業内容の概説	講義
2回	「運動の目的」	講義
3回	「運動の表し方」	講義
4回	「身体運動と力学」小テスト	講義
5回	「運動器の構造と機能」	講義
6回	「神経の構造と機能」	講義
7回	「運動感覚」	講義
8回	「反射と随意運動」小テスト	講義
9回	「四肢と体幹の運動」	講義
10回	運動器の構造と機能 骨、関節の構造と機能	講義
11回	運動器の構造と機能 骨格筋の構造と機能	講義
12回	四肢と体幹の運動 上肢帯	講義
13回	四肢と体幹の運動 肩関節 小テスト	講義
14回	四肢と体幹の運動 肘関節	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

運動学 II

2学年

[基本情報]

担当教員	福井 悠紀子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、認定実技審査員（柔整、柔道）の資格を持ち、医療系大学で運動学を指導した経験がある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

下肢と体幹の運動器の構造、歩行、走行、姿勢、運動発達について理解する。体の仕組みを理解し、立位時や運動時にはどのような動作が行われているかを理解する。新生児から成人までの運動発達を理解し、人の運動がどのように成熟、抑制されるかを理解できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「運動学」 斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会監修

「基礎運動学」 中村 隆一 斎藤 宏 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

教科書の全体を1度通読し、その内容について、理解した点、理解できなかった点を明確にしてください。理解できなかった点を自分自身で調べてみてから、もう一度教科書全体を通読して理解に努めてください。（安全な環境確保時において、お互いの意思疎通ができていないもとに、自分と他の受講者との間で教科書内容や理解の評価を協同して行ってもよいです。（要確認）

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	四肢と体幹の運動 手関節	講義
2回	四肢と体幹の運動 手指の筋	講義
3回	股関節の運動 小テスト	講義
4回	膝関節の運動	講義
5回	足関節と足部の運動	講義
6回	体幹と脊柱の運動	講義
7回	頸椎の運動 中間テスト	講義
8回	胸椎の運動	講義
9回	腰椎、仙椎および骨盤、顔面の運動	講義
10回	「姿勢」	講義
11回	「歩行」	講義
12回	「運動発達」 中間テスト	講義
13回	「運動学習」	講義
14回	総復習（四肢と体幹の運動～運動学習）	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

疾病と傷害

[授業科目]

病理学概論 I

2学年

[基本情報]

担当教員	澤田 達男	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医師及び大学で病理学を専攻した教授が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

病理学についての理解と疾患による生体の変化を病因、形態学的観点から理解する。病理学とはどのような学問かを理解し、生体の観察方法、組織の萎縮や肥大変性、疾病の分類、壊死、循環障害、炎症について、柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

小テストを行い、その平均点を成績判定に加味する。小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが、公欠以外の欠席の場合は0点とし、平均点に含む。単位認定試験と合わせて100点満点中60点以上で単位を認定する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	病理学とは、病理学の対象、剖検、観察方法						講義
2回	疾病の分類、症候の分類						講義
3回	萎縮、変性						講義
4回	代謝障害						講義
5回	老化、壊死、死						講義
6回	血液の循環障害						講義
7回	リンパ液の循環障害						講義
8回	脱水症、高血圧						講義
9回	肥大、過形成						講義
10回	脳死と臓器移植						講義
11回	炎症の一般						講義
12回	炎症の原因と形態学的変化						講義
13回	炎症の分類						講義
14回	炎症の一般・原因と形態学的な変化・分類						講義
15回	まとめ、解説						講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床では様々な患者が来院するため、業務範囲外の知識を身に付け、適切に評価、対応できるようにする。評価をする際の適切な対応、問診、視診、打診、触診、生命徴候や検査法などの知識を身に付ける。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版

[履修の条件・留意点]

プリントを参考に板書を筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態のポイントを理解するよう努めること。
毎回配布する確認の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	1 診察概論（一般臨床医学とは？現状と課題、学び方）	講義
2回	2 診察各論1（A医療面接）	講義
3回	2 診察各論2（B視診1）	講義
4回	2 診察各論3（B視診2）	講義
5回	2 診察各論4（B視診3）	講義
6回	2 診察各論5（C打診、E触診）	講義
7回	2 診察各論6（D聴診）	講義
8回	2 診察各論7（F生命徴候）	講義
9回	2 診察各論8（G感覚検査）	講義
10回	2 診察各論9（H反射検査）	講義
11回	2 診察各論10（I代表的な臨床症状1）	講義
12回	2 診察各論11（I代表的な臨床症状2）	講義
13回	3 検査法1	講義
14回	3 検査法2	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

一般臨床のうち呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患に焦点を当て、各疾患の病態、診断、治療の概要を理解し、自分の言葉で説明できることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版

[履修の条件・留意点]

プリントを参考に板書を筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態及び診断と治療のポイントを理解するよう努めること。毎回配布する「確認」の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	呼吸器疾患・総論・各論1	講義
2回	呼吸器疾患・各論2	講義
3回	呼吸器疾患・各論3	講義
4回	呼吸器疾患・各論4	講義
5回	呼吸器疾患・各論5・まとめ	講義
6回	循環器疾患・総論・各論1	講義
7回	循環器疾患・各論2	講義
8回	循環器疾患・各論3	講義
9回	循環器疾患・各論4	講義
10回	循環器疾患・各論5・まとめ	講義
11回	消化器疾患・総論・各論1	講義
12回	消化器疾患・各論2	講義
13回	消化器疾患・各論3	講義
14回	消化器疾患・各論4	講義
15回	消化器疾患・各論5・まとめ	講義
16回	消化器疾患・まとめ	講義
17回	代謝疾患・総論・各論1	講義
18回	代謝疾患・各論2	講義
19回	代謝疾患・各論3・まとめ	講義
20回	一般臨床医学IIまとめ・解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

外科学概論 I

2学年

[基本情報]

担当教員	益子 隆太郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験のある医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な外科学について学ぶ。組織の損傷、熱傷、炎症、感染症、輸血、輸液、消毒、手術法、麻酔、移植、免疫を、柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、小テスト、単位認定試験等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。☒

[教科書]

[参考書]

外科学概論 改定第4版（南江堂）

[履修の条件・留意点]

柔道整復師で特に必要な内容を中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション（解剖・生理の復習を含む）	講義
2回	損傷	講義
3回	炎症と外科感染症	講義
4回	腫瘍	講義
5回	ショック、心肺蘇生、出血と止血	講義
6回	輸液、輸血	講義
7回	消毒と滅菌	講義
8回	手術と麻酔	講義
9回	移植と免疫	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科	講義
12回	甲状腺、頸部疾患、胸部疾患	講義
13回	心臓、脈管、乳腺疾患	講義
14回	腹部外科疾患	講義
15回	まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/

疾病と傷害

[授業科目]

整形外科学

2学年

[基本情報]

担当教員	林 泰京	単位数	2	時間数	30
実務/資格	骨関節、筋などの運動系疾患、外傷を大学で教授経験のある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

整形外科領域の疾患、治療法を学ぶ。運動器を施術するにあたり、外傷以外の疾患に対しても適切に対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、小テスト、進級試験単位認定試験、進級試験の結果をもって総合判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。小テストを公欠により欠席した場合は平均点に含まないが、公欠以外の欠席の場合は0点とし、平均点に含む。単位認定試験100点満点中60点以上で単位を認定する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改訂第4版）

標準整形外科学（第14版）

[履修の条件・留意点]

1) 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2) 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3) 学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	整形外科とは 運動器の基礎知識,整形外科の診察法	講義
2回	整形外科の検査法	講義
3回	整形外科の治療法(①保存療法②観血的療法)	講義
4回	骨関節損傷総論、スポーツ整形外科学	講義
5回	疾患別各論①感染性疾患	講義
6回	疾患別各論②悪性骨腫瘍	講義
7回	疾患別各論③良性骨腫瘍、軟部腫瘍	講義
8回	小テスト、疾患別各論④非感染性軟部・骨関節疾患（変形性関節症、関節リウマチほか）	講義
9回	疾患別各論⑤非感染性軟部・骨関節疾患（骨粗鬆症ほか）	講義
10回	疾患別各論⑥全身性の骨・軟部疾患	講義
11回	疾患別各論⑦骨端症、⑧四肢循環障害	講義
12回	疾患別各論⑧四肢循環障害	講義
13回	疾患別各論⑨上肢神経損傷	講義
14回	小テスト、総復習	講義
15回	総まとめ、解説	講義

2024年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	田中 順一郎	単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、知識を整理・吸収し、リハビリテーションの基礎について学ぶ。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会
監修：リハビリテーション医学 改訂第4版

授業毎にプリントを配布する

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。教科書を読んでもらうことが望ましい。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机の上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーションの理念	講義
2回	リハビリテーションの対象と障害者の実態	講義
3回	障害の階層とアプローチ	講義
4回	リハビリテーション評価学(身体計測、関節可動域測定法：上肢、下肢)	講義
5回	リハビリテーション評価学(徒手筋力テスト：上肢・下肢、身体所見)	講義
6回	リハビリテーション評価学(身体所見、小児運動発達の評価、ADL評価)	講義
7回	リハビリテーション評価学(心理的評価、認知症の評価、電気生理学的検査、画像検査)	講義
8回	リハビリテーション評価学(運動失調、障害の評価、関節拘縮、関節の変形)	講義
9回	リハビリテーション障害学と治療学(筋萎縮、末梢神経麻痺、中枢神経麻痺)	講義
10回	リハビリテーション障害学と治療学(摂食・嚥下障害、高次脳機能障害)	講義
11回	リハビリテーション障害学と治療学(ライフサイクルと各ステージの障害特性、障害の受容、廃用症候群)	講義
12回	リハビリテーション障害学と治療学(関節拘縮、リンパ浮腫、筋力強化、慢性疼痛、バイオフィードバック)	講義
13回	リハビリテーション障害学と治療学(歩行練習、全身運動、レクリエーション治療、リスク管理)	講義
14回	リハビリテーション評価学・障害学と治療学	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道 I

2学年

[基本情報]

担当教員	福井 悠紀子	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、認定実技審査員（柔整、柔道）の資格を持ち、医療系大学で運動学を指導した経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

基本動作と基本となる礼法、受け身、技の習得、安全な攻防と乱取り稽古の習得

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道創始者である嘉納治五郎は「文と武は分けられないとする「文武不岐」という言葉から、勉強には武的な要素があり、武にも文の要素がある」としており、柔道を学ぶことが一定の学習効果を上げることにつながると述べています。すなわち、柔道と学問が一体化しているということを学んで頂きたい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	礼法、投げ技の基本動作（姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身）								実習
2回	礼法、投げ技の基本動作（姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身）								実習
3回	礼法、投げ技の応用動作（姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身）								実習
4回	礼法、投げ技の応用動作（姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身）								実習
5回	投げ技の基本動作								実習
6回	投げ技の基本動作								実習
7回	投げ技の応用動作（移動範囲を広くする）								実習
8回	投げ技の応用動作（移動範囲を広くする）								実習
9回	試験前対策								実習
10回	試験と振り返り、まとめ								実習
11回	柔道の歴史①								実習
12回	投げ形のしくみ①（手技）								実習
13回	投げ形のしくみ②								実習
14回	投げ形のしくみ②								実習
15回	ブレ認定実技（実技）								実習

[授業科目]

柔道 II

2学年

[基本情報]

担当教員	福井 悠紀子		単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、認定実技審査員（柔整、柔道）の資格を持ち、医療系大学で運動学を指導した経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

基本動作と基本となる礼法、受け身、技の習得、安全な攻防と乱取り稽古の習得

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道創始者である嘉納治五郎は「文と武は分けられないとする「文武不岐」という言葉から、勉強には武的な要素があり、武にも文の要素がある」としており、柔道を学ぶことが一定の学習効果を上げることつながると述べています。すなわち、柔道と学問が一体化しているということを含んで頂きたい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	礼法、投げ技の基本動作（姿勢、組み方、崩し、進退動作、体さばき、受け身）						実習
2回	受け身、投げ技の対人的技能（基礎）						実習
3回	柔道大会見学実習（怪我についての課題あり）						実習
4回	受け身、打ち込み、投げ技の対人的技能（基礎、含 約束練習）得意技を身につけさせること						実習
5回	受け身、打ち込み、投げ技の対人的技能（基礎、含 約束練習）得意技を身につけさせること						実習
6回	投げ技の対人的技能（基礎、約束練習）崩し方、組みでの方法を理解させる						実習
7回	投げ技の対人的技能（基礎、約束練習）崩し方、組みでの方法を理解させる						実習
8回	受け身、投げ技の対人的技能（基礎、含 約束練習）、固め技の基本動作と対人的技能基礎、						実習
9回	試験前のまとめ						実習
10回	試験と振り返り、まとめ						実習
11回	試験後の振り返り						実習
12回	投げ形のしくみ①（腰技）						実習
13回	投げ形のしくみ②（腰技）						実習
14回	投げ形のしくみ③（腰技）						実習
15回	総括						実習

2024年度

[分野]

専門基礎

/

保健医療福祉と柔道整復の理念

[授業科目]

柔道Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	福井 悠紀子		単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、認定実技審査員（柔整、柔道）の資格を持ち、医療系大学で運動学を指導した経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

基本動作と基本となる礼法、受け身、技の習得、安全な攻防と乱取り稽古の習得

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道創始者である嘉納治五郎は「文と武は分けられないとする「文武不岐」という言葉から、勉強には武的な要素があり、武にも文の要素がある」としており、柔道を学ぶことが一定の学習効果を上げることにつながると述べています。すなわち、柔道と学問が一体化しているということを学んで頂きたい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	投の形①	手技	浮落の習得						実習
2回	投の形②	手技	浮落の習得						実習
3回	投の形③	手技	背負投の習得						実習
4回	投の形④	手技	背負投の習得						実習
5回	投の形⑤	手技	肩車の習得						実習
6回	投の形⑥	手技	肩車の習得						実習
7回	投の形	手技	まとめ						実習
8回	投の形⑦	腰技	浮腰						実習
9回	投の形⑧	腰技	浮腰						実習
10回	試験と振り返り、まとめ								実習
11回	柔道必修対策①								実習
12回	柔道必修対策②								実習
13回	柔道必修対策③								実習
14回	柔道必修対策④								実習
15回	総括								実習

2024年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

教科書およびプリントによる授業実施、臨床に向けての理論を学び、実技につなげる。それぞれの骨折を解剖学を含めて学び、臨床現場で適切な施術、処置ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テストの結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書 他

[履修の条件・留意点]

教科書および配付プリントは毎回持参する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頭部、顔面部の骨折①	講義
2回	頭部、顔面部の骨折②	講義
3回	小テスト 頸椎の骨折	講義
4回	胸椎の骨折	講義
5回	腰椎の骨折	講義
6回	脊椎骨折のまとめ	講義
7回	小テスト 胸部の骨折①	講義
8回	胸部の骨折②	講義
9回	胸部の骨折③	講義
10回	小テスト 骨盤骨骨折①	講義
11回	骨盤骨骨折②	講義
12回	大腿骨近位端部骨折①	講義
13回	大腿骨近位端部骨折②	講義
14回	小テスト まとめ	講義
15回	総まとめ	講義

2024年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整脱臼理論Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

体幹、下肢の脱臼について理解する。各関節の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験にて（60点以上）単位を認定する。
ただし、授業内で行う小テストの結果も考慮し判定する。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論・実技

標準整形外科 骨・関節X線写真の撮りかた見かた

[履修の条件・留意点]

臨床において対応できるように基本的な知識を身に付けよう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	手部の脱臼（小テスト問題含む）					講義
2回	顎関節脱臼①（解剖・発生機序）					講義
3回	顎関節脱臼②（前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼）					講義
4回	顎関節脱臼②（整復法・固定）					講義
5回	顎関節脱臼復習 / 解答・解説 / 頸椎脱臼①（解剖）					講義
6回	第1回小テスト / 頸椎脱臼・胸腰椎脱臼					講義
7回	股関節脱臼②（前方脱臼・後方脱臼）					講義
8回	股関節脱臼③（中心性脱臼）					講義
9回	発育性股関節脱臼①（概要）					講義
10回	発育性股関節脱臼②（固定法）					講義
11回	第2回小テスト / 解答・解説					講義
12回	膝関節脱臼①（機能解剖・前方脱臼）					講義
13回	膝関節脱臼②（後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼）					講義
14回	膝関節脱臼復習問題 / 解答・解説					講義
15回	まとめ・解説					講義

2024年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整軟損理論Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

体幹、下肢の軟部組織損傷について理解する。各組織損傷の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

標準整形外科学（医学書院）

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机の上に置かず、鞆の中にしまうこと。

授業中は脱帽すること。居眠り、スマホなどを複数回注意された場合は減点となります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	股関節疾患①：単径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股				講義
2回	股関節疾患②：梨状筋症候群、股関節拘縮、大腿骨頭すべり症、ベルテス病、大腿骨				講義
3回	大腿部軟損：大腿部打撲、肉離れ				講義
4回	小テスト① 股関節疾患～大腿部疾患				講義
5回	膝関節疾患①：膝の構造、半月板損傷				講義
6回	膝関節疾患②：膝の靭帯損傷				講義
7回	膝関節疾患③：発育期の損傷、腸脛靭帯炎、鷲足炎				講義
8回	膝関節疾患④：膝蓋大腿関節疾患、神経障害				講義
9回	小テスト② 小児の膝疾患～膝蓋大腿関節疾患				講義
10回	下腿部軟部組織損傷：アキレス腱断裂、テニスレッグ、コンパートメント症候群				講義
11回	足部軟部組織損傷①：アキレス腱炎、足関節捻挫				講義
12回	足部軟部組織損傷②：ショパール関節、リスフラン関節損傷、扁平足障害				講義
13回	足部軟部組織損傷③：足部の有痛性疾患				講義
14回	小テスト③ 下腿部～足部軟部組織損傷、				講義
15回	まとめ、解説				講義

2024年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整総合講座 I

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復学について学ぶ。柔道整復学理論の総論を含む軟部組織損傷についてさらに理解を深め、整形外科疾患なども合わせて理解し、臨床現場で対応できる知識、能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

標準整形外科学（医学書院）

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机の上に置かず、鞆の中にしまうこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肩の軟部組織損傷（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷）				講義
2回	肩の軟部組織損傷（野球肩、肩関節周囲炎）				講義
3回	肘の軟部組織損傷（靭帯損傷、PLRI、外側上顆炎）				講義
4回	肘の軟部組織損傷（野球肘：内側型、外側型、後方型）				講義
5回	小テスト①（肩、肘の軟部組織損傷）				講義
6回	上肢の神経麻痺（正中神経麻痺、橈骨神経麻痺）				講義
7回	上肢の神経麻痺（尺骨神経麻痺）				講義
8回	小テスト②（正中、橈骨、尺骨神経麻痺）				講義
9回	手の軟部組織損傷（TFCC損傷、キーンバック病）				講義
10回	手の軟部組織損傷（ド・ケルバン病、腱交叉症候群）				講義
11回	指の軟部組織損傷（側副靭帯損傷、弾発指、ヘバーデン結節、ブシャール結節）				講義
12回	小テスト③（手、指の軟部組織損傷）				講義
13回	総復習（肩～指疾患）				講義
14回	まとめ、解説				講義
15回	総合試験				講義

2024年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整総合講座Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

教科書およびプリントによる授業実施、臨床に向けての理論を学び、実技につなげる。それぞれの骨折を解剖学を含めて学び、臨床現場で適切な施術、処置ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テストの結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書 他

医学書院 骨折治療の進め方

[履修の条件・留意点]

私語など他の学生に迷惑をかける行為は禁止とする。

※学生諸君の理解度、要望により授業計画、内容の変更の可能性あり

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	大腿骨骨幹部骨折①						講義
2回	大腿骨骨幹部骨折②						講義
3回	大腿骨遠位端部骨折						講義
4回	膝蓋骨骨折						講義
5回	下腿骨近位端部骨折						講義
6回	小テスト 下腿骨骨幹部骨折						講義
7回	下腿骨骨幹部骨折						講義
8回	下腿骨遠位端部骨折						講義
9回	小テスト 足根骨骨折①						講義
10回	足根骨骨折②						講義
11回	中足骨骨折						講義
12回	趾骨骨折						講義
13回	小テスト 下肢骨折演習問題						講義
14回	頭部体幹骨折演習問題						講義
15回	総まとめ						講義

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	1	時間数	30
実務/資格	接骨院やスポーツ現場で臨床を経験した柔道整復師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

座学で学んだ下肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。下肢の骨折の整復固定の技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験と進級試験も結果をもって判定する。

なお、前授業数の1/3以上の欠席があった場合、学年末試験の受験を認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂版第2版

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯、ハサミなど必要なものは忘れない事。実技の時間は白衣を着用し、アクセサリなど実技の邪魔になるものは外す事。実技室は飲食禁止です、また机上に飲食物を置く事も禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	第5中手骨頸部骨折(理論・固定)	実習
2回	第5中手骨頸部骨折(理論・固定材作成)	実習
3回	第5中手骨頸部骨折(プライトン固定)	実習
4回	中足骨骨折(理論・固定)	実習
5回	中足骨骨折(プライトン固定)	実習
6回	肋骨骨折(診察法の手順・厚紙作成)	実習
7回	肋骨骨折(理論・固定)	実習
8回	肋骨骨折(固定)	実習
9回	下腿骨幹部骨折(診察法の手順と整復)	実習
10回	下腿骨幹部骨折(クラーメル副子固定)	実習
11回	下腿骨幹部骨折(ギプス固定)	実習
12回	復習(中足骨・足趾骨折)	実習
13回	復習(ボクサー・肋骨・下腿骨幹部骨折)	実習
14回	まとめ・解説	実習
15回	まとめ・解説	実習

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。外傷に対するギプスの固定技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 実技編 包帯固定学

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯セット、ハサミを忘れない事。座学以外の授業は常に白衣は着用する事。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中の机の上に菓子、飲み物等を出しておかない。実技室は飲食禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ギプス（理論）前腕ギプス・膝関節ギプス・足関節ギプス（走行練習）					実習
2回	前腕短腕ギプス（手関節良肢位）					実習
3回	膝関節ギプス（理論）（靭帯損傷・膝蓋骨骨折に対応）					実習
4回	膝ギプス					実習
5回	足関節ギプス（理論）（靭帯損傷・足関節部骨折に対応）					実習
6回	足関節ギプス					実習
7回	足趾骨折固定					実習
8回	足趾骨折固定					実習
9回	鎖骨骨折					実習
10回	上腕骨外科頸骨折					実習
11回	上腕骨骨幹部骨折					実習
12回	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・上腕骨骨幹部骨折					実習
13回	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・上腕骨骨幹部骨折					実習
14回	まとめ、解説					実習
15回	まとめ、解説					実習

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

柔整軟損実技

2学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美	単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

軟部組織損傷に対するの施術，検査法を理解する。体幹，上肢，下肢の軟部組織損傷理解し，各損傷に対するの施術，検査法が適切に行え，評価できる知識，技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

実技試験は認定実技試験に準じて行う。① 術者 ② 患者 ③ 助手 この3つの担当をすべて行って点数を与える。（60点以上で合格とする。）試験日両日の欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復実技

[履修の条件・留意点]

1回やった＝出来るではない。授業時間中は何度も何度も練習をすること。

実技室で実技を行わない、ふざけたりしているなど周りへの迷惑行為があった場合は減点対象とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頸部捻挫・頸椎疾患 徒手検査法					実習
2回	腰部捻挫・腰椎疾患 徒手検査法					実習
3回	肩腱板損傷 徒手検査法					実習
4回	上腕二頭筋長頭腱損傷 徒手検査法					実習
5回	肉離れ（大腿四頭筋）					実習
6回	肉離れ（ハムストリングス）					実習
7回	肉離れ（下腿三頭筋・アキレス腱断裂）					実習
8回	中間まとめ（確認）					実習
9回	膝関節軟部組織損傷（内側側副靭帯損傷）					実習
10回	膝関節軟部組織損傷（十字靭帯損傷）					実習
11回	膝関節軟部組織損傷（膝半月板損傷）					実習
12回	足関節捻挫① 理論 検査法					実習
13回	まとめ・演習					実習
14回	まとめ・演習					実習
15回	まとめ・演習					実習

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技 I

2学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美 最上 忠	単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

下肢の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。下肢脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、下肢軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

* 脱臼・軟損それぞれが6割以上を合格とする。（片方が6割満たない場合は再試験とする。）

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論・実技

標準整形

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。
- ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
- ③ 復習をきちんと行うこと。
- ④ 分からない事はそのままにしないこと。
- ⑤ 検査法や整復法は積極的におこなう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	足部の脱臼（機能解剖・背側脱臼）	実習
2回	足部脱臼 / 足関節機能解剖	実習
3回	足関節脱臼骨折 ①	実習
4回	足関節脱臼骨折 ②	実習
5回	足関節脱臼骨折 ③ / 小テスト	実習
6回	足関節脱臼骨折 ④	実習
7回	総復習・小テスト	実習
8回	ガイダンス、頭部外傷、顎関節症	実習
9回	頸部の疾患①	実習
10回	頸部の疾患②	実習
11回	小テスト、胸背部疾患	実習
12回	腰部疾患①	実習
13回	腰部疾患②	実習
14回	体幹軟損総復習	実習
15回	総復習・まとめ	実習

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技 II

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

上肢、下肢の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術をみにつけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論 実技

標準整形外科

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。
- ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
- ③ 復習をきちんと行うこと。
- ④ 分からない事はそのままにしないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	実技に関する脱臼総論							実習
2回	肩鎖関節脱臼(解剖・理論・整復)							実習
3回	肩関節脱臼(解剖・理論・整復)							実習
4回	肘関節脱臼(解剖・理論・整復)							実習
5回	肘内障(解剖・理論・整復・固定)第2指PIP背側脱臼(解剖・理論・整復・固定)							実習
6回	顎関節(解剖・理論・整復・固定)							実習
7回	肩鎖・肩・肘・肘内障・指背側脱臼	理論確認						実習
8回	肩鎖・肩・肘・肘内障・指背側脱臼	理論確認						実習
9回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)実技							実習
10回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)実技							実習
11回	肩関節前方脱臼(整復・固定)実技							実習
12回	肩関節前方脱臼(整復・固定)実技							実習
13回	肘関節後方脱臼(整復・固定)実技							実習
14回	肘関節後方脱臼(整復・固定)実技							実習
15回	肘内障(整復・固定)実技							実習
16回	第2指PIP背側脱臼(整復・固定)実技							実習
17回	肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼	実技確認						実習
18回	肘関節脱臼・肘内障・第2指PIP背側脱臼	実技確認						実習
19回	まとめ・解説							実習
20回	まとめ・解説							実習

2024年度

[分野]

専門

/

柔道整復実技

[授業科目]

外傷学実技

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床を積んだ専門学校の教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

高齢者、競技者の外傷の予防と、外傷を起こした際の処置能力を身に付ける。高齢者、競技者の生理学的特徴を理解したうえで、どのような予防が効果的かを理解し、適切に説明できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

競技者の外傷予防

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。
実技では白衣着用

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	競技者の外傷予防(外傷発生要因)(外傷予防対策)					実習
2回	競技者の外傷予防のための実技(評価と測定)					実習
3回	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際①セルフケア・アイシング					実習
4回	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際②ストレッチ・テーピング					実習
5回	成長期の外傷予防・高齢者の外傷予防					実習
6回	包帯					実習
7回	包帯					実習
8回	競技者の外傷予防					実習
9回	テニスボールを使ったセルフケア					実習
10回	セルフケア(筋肉の走行を意識してマッサージ)					実習
11回	テーピング(足関節・膝関節)					実習
12回	テーピング(上肢)					実習
13回	ストレッチ(上肢)					実習
14回	ストレッチ(下肢)					実習
15回	まとめ、解説					実習

[授業科目]

臨床実習 II

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床を積んだ専門学校の教員が指導、調整する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

接骨院、整形外科クリニックにおいて実習を行う。クリニックで実習を行うことにより、医師、看護師、理学療法士との連携を学び、より広い視野を身に付ける。また、接骨院では稀な疾患を見ることにより、幅広い患者への対応ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。
上記日程で各6回実習を行う。欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習

[授業科目]

臨床実習Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床を積んだ専門学校の教員が指導、調整する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

接骨院、整形外科クリニックにおいて実習を行う。クリニックで実習を行うことにより、医師、看護師、理学療法士との連携を学び、より広い視野を身に付ける。また、接骨院では稀な疾患を見ることにより、幅広い患者への対応ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。
上記日程で各6回実習を行う。欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習